魚病と養魚技術指導

後藤悦郎

県内の病魚の診断，治療と養魚に関する技術の指導を行ったので報告する。病魚の診断は養殖場巡回時又は業者からの搬入時に行ったがその結果は表－1のとおりであった。

表1　魚病診断結果

魚種＼魚病名	わたかぶり病	ミキソボラス症	白点病	ウオジラミ症	イカリムシ症	キロドネラ症	吸虫寄生症	エピスチリス	細菌性鰓病	ビブリオ病	カラムナリス	その他
コイ，フナ	3		2	3	1	1	1	1				3
アユ	1								1	4		3
マス類		1							1		2	4
テラピア												1
スッポン												1

魚種＼魚病名	類結節症	白点症	ハダムシ症	その他
ハマチ	1		1	1
ヒラメ		2		6
アワビ				2

その他養殖方法の改善，魚病に関する知識の普及，新規養殖相談等を行っているが月別の実施件数，対象人数を表2に示す。

表2　養魚技術指導等実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施件数	7	2	7	0	6	0	1	3	5	7	8	6	52
対象人数	17	4	14	0	16	0	3	7	10	13	20	21	125

○コイ，フナ

家庭の鑑賞ゴイの持ち込みが主体でそのほとんどが寄生虫症であった。

○アユ

放流用種苗を河川漁協が400万尾程度毎年生産するが，その過程で発生する疾病が主体で，特にビブリオ病の発生が多かった。オキソリン酸の投与により治癒するが再発を繰り返した。

○マス類

昨年度2経営体に発生したＩＨＮ症は処置を徹底したため発生しなかった。主な病気は6月に発生したミキソボラス症と8月に発生したカラムナリス症であった。前者は170ｇ程度のヤマメが約3万尾が斃死，後者は10ｇ程度のヤマメが約10万尾斃死した。飼育方法を改善し，再発を防ぎたい。

○ハマチ

7月に類結節症が発生，80ｇ程度のものが3,000尾死亡した。

○ヒラメ

陸上池で各経営体とも養殖しているので白点病が毎年発生している。その他の疾病では稚魚がポツポツ斃死するが原因はわからなかった。

○アワビ

毎年種苗生産した稚貝に発生するが，春先に10～20㎜サイズの付着力が弱くなりシェルターより脱落斃死した。足の裏の縁辺部が白く壊死し，貝殻に欠刻を生ずる等の症状が認められるが検討した結果栄養不足によるのではないかと思われる。